



一中だより

12月号
令和2年12月1日
小平市立小平第一中学校

■SDGsについて

校長 栗林昭彦

SDGsという言葉を目にしない日はまずありません。

SDGs（持続的な開発目標）は、2030年までに「持続可能でよりよい世界」の実現を目指す国際目標です。



17のゴール・169のターゲットから構成され、世界中で取組が始まっています。来年度中学校で使う教科書が全面的に改定になりますが、多くの教科書がSDGsと教科の学習との関連について触れています。中学生にとっても、関係ない話ではないということです。

SDGsへの取組は学校によって大きな違いがあり、都内にも区や市をあげて取り組んでいる所もあれば、「SDGsって何？」というレベルの学校もある。本校も現状ではまだまだです。しかし先に述べたようにこれが日本でも世界でも差し迫った問題であることを考えると、本校でもきちんと学習しておく必要があります。

難しいのは「持続可能な開発」というところです。現在我が国では、安全で健康な生活を送っている人が過半でしょう。しかし世界に目を向ければ戦争や貧困に直面している人たちが数多くいます。私たちだって安全で健康な生活が続くと保証されているわけではありません。そこで今の生活を「持続」させ、また困った状況にある人々の生活を安全で健康な状態にまで「持続」的に発展させられるようにしようというのが「持続可能」の意味です。SDGsはそのために掲げられた17の目標、ということです。

大人も子供も、学校も企業も、この目標を意識した行動を進めていくこと。それは誰かにやってもらうことではなく、皆がやらないといけません。遅ればせながら、本校でもこの取組に関わっていこうと考えています。

